

林せいじ

札幌市議会 市政報告



vol.29 2025.3

市政
だより

市民が主役の
街づくり。

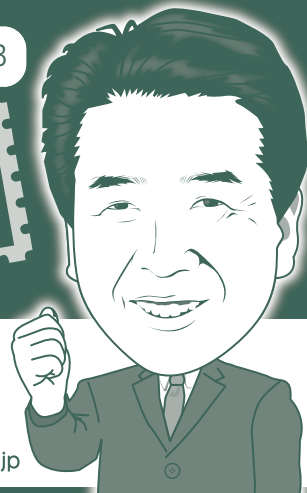
〔発行者〕札幌市議会民主市民連合

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 ☎011-211-3212

林せいじ事務所 〒002-8025 札幌市北区篠路5条2丁目3-14

☎011-775-6321 ☎011-775-6322

URL <http://hayashi.main.jp/> E-MAIL hayasi-seiji-jimusyo@biscuit.ocn.ne.jp



4年連続人口減少

今後の札幌市の
在り方を検討

第1回定例会が2月13日開会し、3月28日閉会の予定で2025年度予算案を中心として議論が行われています。

予算案は一般会計合計で1兆2,666億円。特別・企業会計を含めた総予算は1兆9,760億円となり、過去最高額を更新しました。今定例会は、物価高騰対策を含めた89億円の補正予算案を含めた議論となります。

当初予算案は、①子ども・子育て支援②GX・経済活性化③ウェルネス（健康）・ユニバーサル（共生）・スマート（快適・先端）④安全・安心⑤喫緊の課題への対応の5本柱となっています。

市税収入は増加・今後は大きく減少の方向

24年度・25年度の市税収入は増加しているものの、中期実施計画（アクションプラン2023）

では人口減少が続くことで、今後大きな減収が見込まれています。会派として今後の市民生活に関する施策への影響等を考慮し、意見提言をしていくことが必要と考えます。

要望書の提出

会派「民主市民連合」は11月1日に「公共交通ネットワークの維持に向けた緊急要望」を、11月21日に2025年度予算編成に対する要望書を提出しました。公共交通ネットワークに関しては運転手不足による路線バスの減便、廃止が続くことへの危機感から市民生活を守る目的で提出し、25年度予算案にも新規施策が盛り込まれました。

札幌市議会議員

林 せいじ

敬老パスの今後の姿

25年度予算案に敬老パスの制度変更に関わるシステム改修費が計上されています。今回の定例会で決定すると、2026年度より変更となります。

当初市は、現行の敬老パスを廃止して、全てアプリを利用する方法を提案しましたが、我が会派の提言により、現行の敬老パスを存続し、これとは別に健康アプリを導入することとしました。

25年度までに使用開始している市民は継続して利用できます。使用上限額と負担額は4年間の経過措置期間を設けて変更となります。26年度（来年4月）以降に新規で制度利用する市民は新しい基準での利用となります。

見直し 1

対象年齢を70歳から75歳に引き上げます

- 高年齢者雇用安定法の改正により、2025年4月以降、定年年齢の引き上げ(60歳→65歳)が義務化されます
- 制度開始時(1975年)から本市の平均寿命は10歳程度上昇しています
- 他の政令指定都市においても、同様の見直しが進んでいます
他政令都市(参考)：【北九州市】75歳以上【京都市】2022年度から70歳から75歳へ段階的に引き上げ

2026年度時点で既に敬老パスの交付を受けている方は、引き続き敬老パスを選択可能とします

見直し 2 26年4月以降新規利用者

自己負担割合を一律50%に引き上げ、チャージ上限を4万円に引き下げます

- 他都市の実施状況や子ども乗車料金を踏まえて自己負担割合を見直します
- 利用者の多くが4万円以下の利用であり、適正なチャージ上限額に引き下げを行います

現 行	チャージ額	10,000	20,000	30,000	40,000	50,000	60,000	70,000
	負担割合	10%	15%	20%	20%	20%	22.5%	24.3%
	負担額	1,000	3,000	6,000	8,000	10,000	13,500	17,000

2026年度以降	チャージ額	10,000	20,000	30,000	40,000	上限引き下げ		
	負担割合	50%	50%	50%	50%			
	負担額	5,000	10,000	15,000	20,000			

2026年度以後に新規交付を受ける場合は、見直し後の負担割合・チャージ上限額とします

激変緩和

2026年度時点で既に敬老パスの交付を受けている方で、引き続き敬老パスを選択する方に対し、以下の経過措置を適用します

現 行	チャージ額	10,000	20,000	30,000	40,000	50,000	60,000	70,000
	負担割合	10%	15%	20%	20%	20%	22.5%	24.3%
	負担額	1,000	3,000	6,000	8,000	10,000	13,500	17,000

2026年度	負担割合	25%	30%	35%	35%	35%	40%	40%
	負担額	2,500	6,000	10,500	14,000	17,500	24,000	28,000

2027年度	負担割合	40%	40%	50%	50%	50%	50%	上限引き下げ
	負担額	4,000	8,000	15,000	20,000	25,000	30,000	

2028年度	負担割合	50%	50%	50%	50%	50%	上限引き下げ	
	負担額	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000		

2029年度	負担割合	50%	50%	50%	50%	上限引き下げ		
	負担額	5,000	10,000	15,000	20,000			

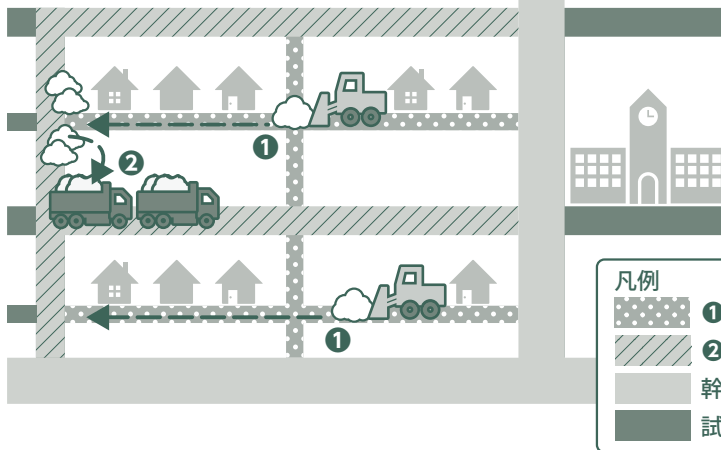
生活道路除排雪の試験施工と検証のポイント

1 23年度の試験施工と作業結果(9区10地域 約28km)

- 主に生活道路の①圧雪部分を削り出す作業を実施
- ダンプトラックへの②積込作業は広めの道路などで実施

除排雪作業の効率化に向けた手法の検証

①削り出し路線と②積込路線の概念図



①削り出し作業のイメージ



②積込路線のイメージ



凡例

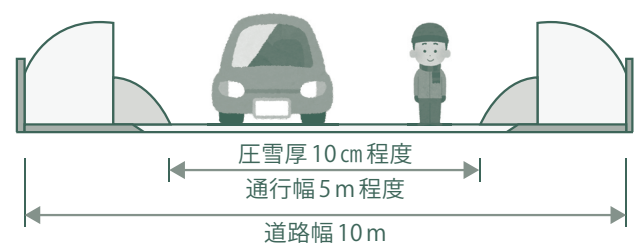
- ①削り出し路線
- ②積込路線
- 幹線・バス路線等
- 試験施工の対象外

作業後
イメージ

①削り出し路線



②積込路線



作業結果

- 一部地域でパートナーシップ排雪と比較し作業日数を短縮
- 暖気前の作業により、ザクザク路面の抑制や苦情要望が減少

作業の課題
(改善点)

- 道路幅員や路面状況などによって、削り出しに時間がかかる
- 狭い道路が多い地域などでは、雪置き場の確保が難しい

更なる作業の効率化に向けた手法の検証が必要

2 24年度の試験施工(3区4地域 約24km)

	町内会名	延長
白石区	① 北郷北部町内会、北郷瑞穂町内会(一部)	約7.2km
西 区	② 二十四軒東第6町内会、二十四軒第7町内会	約4.8km
	③ 西町中の川町内会	約5.2km
手稲区	④ 新発寒向陽町内会	約6.6km
3 区	4 地域	約23.8km

検証の
ポイント

- 試験施工地域毎に様々な除排雪手法(除雪機械)により実施
- 降雪状況等に応じて、排雪作業時期の前倒しなども想定
- 1地域あたりの範囲を広げて実施(平均約6km)



- 道路環境に応じた面的な作業計画や除雪機械の組み合わせによる効率化の検証
- シーズンを通した冬期道路環境の確認

林 せい じ 活 動 報 告

札幌市へ「公共交通ネットワークの維持に向けた緊急要望書」を提出



公共交通ネットワークの維持に向け秋元市長と意見交換

会派で昨年11月1日、緊急要望書を提出しました。札幌市内で運行している路線バス事業者3社において運転手不足を大きな要因として、バス路線の減便及び廃止が提案されたことを踏まえ、市へ要望書を提出しました。



秋元市長（右）に要望書を提出

(仮称) 健康アプリについて

2025年度からスマートフォンを利用した（仮称）健康アプリのモニター事業が実施されます。モニターの意見を反映して得られたデータを分析・検証します。



イメージ▶▶

40歳～64歳

壮年期から(仮称)健康アプリを用いて健康増進

65歳～

(仮称)健康アプリで豊かな老後の生活の充実へ

得られたデータを活用して実証的に普及拡大

お知らせ



市政相談の際は、
お気軽にお立ち寄りください。

〒002-8025 札幌市北区篠路5条2丁目3-14
TEL 011-775-6321 FAX 011-775-6322

